

平成25年度佐佐木信綱記念館特別展について

◆テーマ 郷土に残る弘綱・信綱親子の資料——石薬師を中心として——

◆期間 11月6日（水）～12月15日（日）

◆開館時間 午前9：00～午後4：30

◆休館日 月・第3火曜日

◆入館料 無料

◆会場 佐佐木信綱記念館展示室（鈴鹿市石薬師町1707-3）

◆内容 佐佐木信綱は、昭和38年12月2日に92年間の生涯を終えました。本年は没後50年目にあたりますが、長い年月を経ても今なお、郷土の人々は信綱を敬愛し、また、その父弘綱にも高い関心を寄せています。このたび、石薬師在住の伊東家（大木神社）、大森家、岡田家、清水家、浄福寺（青木家）、藤井家と市内在住の田上家（長瀬神社）、玉田家からの借用資料に加え、以前にご寄贈いただいた磯部家、岡部家（崇徳寺）、田上家資料をあわせ、いまに伝わる弘綱・信綱親子の短冊や掛軸等の資料を展示します。

弘綱・信綱親子と各家々は、師弟や知友の関係にありました。弘綱が50歳・信綱が6歳の時に石薬師の地を離れることになりましたが、その後も親子と交流をもち続けていた家々もあったようです。さらに弘綱亡き後も、信綱は「日本語いく千万の中にしてなつかしきかも『ふるさと』といふは」、「父をしのび父がめでにしふるさとの鈴鹿の秋を遠くしのぶも」と歌に詠み、故郷を慕って何度も足を運び、郷土の人々との交流を大切にしました。

今回の特別展では、各家々に伝わり、大切に受け継がれてきた弘綱・信綱親子の資料を一堂に展示し、親子が郷土に残した足跡を新たに見出すとともに、郷土の人々との交流を紹介します。

◆展示構成：主な展示資料 下記の項目別に、合計約 100 点を展示予定
主な展示資料①～⑬の詳細は別紙 1 参照

伊東家（大木神社，石薬師）資料／同家蔵

①弘綱・信綱ほか歌短冊扇面貼り混ぜ屏風

大森家（石薬師）資料／同家蔵

②弘綱歌額

岡田家（石薬師）資料／同家蔵

③信綱歌短冊貼り合わせ掛軸

清水家（石薬師）資料／清水家・市川家蔵

④信綱歌色紙・⑤弘綱竹画掛軸

浄福寺（青木家，石薬師）資料／同家蔵

⑥信綱歌掛軸

藤井家（石薬師）資料／同家蔵

⑦弘綱座像万古焼

磯部家（神戸）資料／鈴鹿市蔵（黒田家寄贈）

⑧磯部華溪画弘綱賛掛軸

岡部家（崇徳寺，甲斐）資料／鈴鹿市蔵（同家寄贈）

⑨弘綱，信綱手紙

田上家（長瀬神社，長沢）資料／鈴鹿市蔵（同家寄贈）・佐野家蔵

⑩弘綱歌紙箋・⑪弘綱竹画賛掛軸

玉田家（西条）資料／北川家

⑫弘綱歌短冊

門人録等にみる郷土の人々

⑬伊勢国石薬師竹柏園学友次第不同録／公益財団法人石水博物館蔵

◆主 催 鈴 鹿 市

【問い合わせ先】 佐佐木信綱記念館

〒513-0012 鈴鹿市石薬師町 1707-3 TEL・FAX 059-374-3140

別紙 1

伊東家資料／

①弘綱・信綱ほか歌扇面短冊貼り混ぜ屏風

扇面 2 枚〔弘綱〕と短冊 14 枚〔弘綱 4 枚・信綱 1 枚・光子（信綱母） 3 枚・昌綱（信綱弟） 3 枚・陽綱 1 枚（弘綱兄）・保綱 2 枚（陽綱養子）〕とが貼られた屏風。

弘綱歌 はなをもてあそぶ 翫花

よの中の人心の色をさへ

あらはすものは桜也けり

信綱 8 歳歌 桜さく庭のけしきをみてをれは
かりかへるなり春の夕くれ



大森家資料／②弘綱歌額

初冬菊

おきまよふ霜の花ふく朝風に

菊の香寒く冬はきにけり



岡田家資料／③信綱歌短冊貼り合わせ掛軸

岡田時信を追悼して詠んだ歌短冊を軸装している。

A 鈴かおろし寒くふくらむちゝのみを
しのふたもとに寒く吹くらむ

なき父のをしへ子として故郷に
のこりし君もゆきにけらすや

B 岡田大人をいたみて
すゝかやまふりにしちゝかをしへ子の
君ゆきぬ同じさみたれの比を

*…時信の命日は 1 月 15 日で、B の歌に詠まれた時季と食い違いがある。時信以外（芳史〔7 月 5 日命日〕）か。



B A

↓⑤



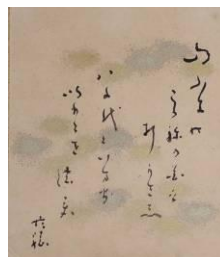
↓④

清水家資料／④信綱歌色紙・⑤弘綱竹画掛軸

④清水房太郎（石薬師村長）夫妻の金婚を祝った歌。

山ふきのこかねの花を折かさし

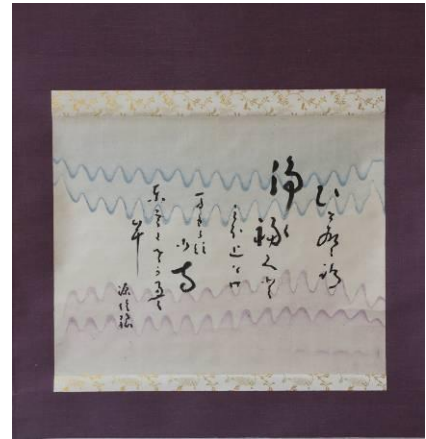
八千代にいますいとせの君



浄福寺資料／⑥信綱歌掛軸

ひとこゝろ^{きよくふ}浄福くとみほとけの
まもらす御寺とはにさかゑむ

歌の中に「浄福寺」と詠み込んでいる。



藤井家資料／⑦弘綱座像万古焼

川村又助制作。

大正3年6月の弘綱碑前祭（浄福寺にて）の記念として、人々に配られた。



磯部家資料／⑧磯部華溪画弘綱賛掛軸

磯部華溪（神戸の町年寄・歌人であった磯部長恒の弟）が江戸柳原の寓居で、宮崎青谷（津藩漢学者・画家）の月ヶ瀬の画（斎藤拙堂著『月瀬記勝』内挿絵）を嘉永2年に臨写したという。

弘綱は、「舟よふこゑもかをるなり いはうつ浪もにほふなりをやまつきのせさきつゝく うめの中ゆく名張川」と賛している。



岡部家資料／⑨弘綱，信綱手紙

上：岡部光道宛に弘綱が記した明治22年3月13日の封書1通。
光道の手紙に対する返書で、弘綱は「御情いといたうれしく候」と記し、四日市や鈴鹿の門人のことを懐かしむ内容の手紙を送っている。また、光道は弘綱に師事していたようで、月次兼題や入門・月謝料金等一覧が同封されている。

下：岡部豊道（光道弟）宛に信綱が記した明治31年1月15日の封書1通。

弘綱の門下であった豊道から入門の申し出があり、信綱は入会金や添削料が必要など、入門にあたっての必須事項を伝えている。また幼少の頃のことによく覚えていないが、甲斐の人と聞いて昔が偲ばれたと記し、「今もなほ目にこそうかへはゝの背におはれてこえし甲斐川の水」の一首を書き送っている。



田上家資料／⑩弘綱歌紙箋・⑪弘綱竹画賛掛軸

⑩ちたひ見てちたひけしきのかはるかな
風にまかする竹のすかたは

⑪ふけとふく風のまにまにあらそはぬ
竹の心をこゝろともかな



↑ ⑩



↑ ⑪

玉田家資料／⑫弘綱歌短冊

玉田重兵衛（弘綱知友）の跡取り
誕生を祝った歌。

うらやまし氏の玉田の玉よりも
まさるたからをえたるこゝろは



⑬伊勢国石薬師竹柏園学友次第不同録／公益財団法人石水博物館蔵

伊勢国 石薬師 竹柏園 学友次第不同録	
<p>荒木田守一 多羅尾純門 信楽代官 など 240名 の名前 が挙げ られて いる。</p>	<p>その中 で、現 鈴鹿市 出身の 人々と して55 名 の名前 がみら れる。</p>

荒木田守一が作成した弘綱門人一覧表で、多羅尾純門（信楽代官）など、240名の名前が挙げられている。

その中で、現鈴鹿市出身の人々として55名の名前がみられる。石薬師としては、浄福寺英梁、園田守孝、伊東祐邦、伊東貞敏、岡野則行、岡田重好、森茂成、岡田時信、岡田重信、堀岡高路、清水長行、平尾由成、園田守英、森昭信、大森長昌、佐々木光子（弘綱夫人）の16名の名前がある。

平成25年10月17日 市政記者クラブ提供資料

講演会について

◆日時 平成25年11月9日(土) 午後1時30分～4時

◆参加費 無料

◆会場 佐佐木信綱記念館 講座室 (鈴鹿市石薬師町 1707-3)

◆定員 70名

◆内容 「佐佐木信綱記念館特別展(郷土に残る弘綱・信綱親子の資料)の解説」
佐佐木信綱記念館学芸員 磯上知里

「石薬師に集う和歌の道」 詳細は別紙2参照
日本文藝家協会会員 津坂治男 氏

◆主催 鈴鹿市・佐佐木信綱顕彰会

[問い合わせ先] ・佐佐木信綱記念館
〒513-0012 鈴鹿市石薬師町 1707-3 TEL・FAX 059-374-3140
・佐佐木信綱顕彰会
会長 市川琢也 059-374-1616

別紙 2

講師紹介 (佐佐木信綱顕彰会提供)

津坂 治男

略 歴

1931年 津市に生まれる (82歳)
三重医大中退・東洋大学国文学科卒
1992年 三重県教員を定年退職

在職中より詩・評論、郷土の古典の研究に携わり、
三重県文学新人賞、同奨励賞、津市教育功労賞、
小熊秀雄賞 (現代詩)、少年詩賞を受賞

古典関係では

『花に向かへば—伊勢国鈴屋群像』
『津坂東陽伝』
『谷川士清と日本魂』等の著

研究では

『雅の同行—佐々木弘綱と地元の歌人』(東洋大学「白山国文」)
『佐佐木信綱と新体詩』
『若き佐佐木信綱と中野逍遙』
『蝦夷日記の著者児山紀成』(ともに「泗楽」所載) など

現在、日本文藝家協会・日本現代詩人会・鈴屋学会等所属